

新規オリジナル植物エキスの開発を目指して

アルビオン 高知県立牧野植物園と共同研究を開始

株式会社アルビオン(本社:東京都中央区、代表取締役社長:小林 章一)は、高知県立牧野植物園(所在地:高知県高知市、園長:川原 信夫)と、有用植物資源の探索や有効成分の分析、肌への効果効能の解析を通じた新規オリジナル植物エキスの開発を目指し、共同研究契約を結びましたのでお知らせいたします。

■経緯

アルビオンではかねてより、安心・安全で真に価値のある商品をご提供するため、世界各地より厳選した素材を化粧品原料として活用することに加え、世界自然遺産白神山地の麓にある自社農場において、その豊かな自然環境を活用し、化粧品原料となる植物を有機農法にこだわり栽培してきました。さらには、専門機器による詳細な成分分析や、細胞を用いた肌効果検証を行うことで、アルビオン独自の高機能な化粧品原料を生み出してきました。

一方、牧野植物園は「日本の植物分類学の父」と呼ばれる高知県出身の植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰し、1958年に開園。広さ約8haの園地には、博士ゆかりの野生植物など3,000種類を超える植物を保有しています。また、植物の展示だけでなく、国内外の植物の調査・収集のほか、遺伝資源の探索や薬用植物の有効活性物質の探索及び栽培など研究分野にも注力し、日本有数の総合型植物園として歩み続けています。

この度、牧野植物園が有する植物情報知見とアルビオンが持つ研究開発力の相互活用や、研究者間の交流を深めることで両者のさらなる発展が期待できるとの認識で一致したため、新規オリジナルエキスの開発を目指して契約の締結に至りました。

■今後の展望

牧野植物園の保有する植物資源の効能解析のほか、化粧品原料候補植物の栽培・増産方法の検討など、それぞれが保有するデータや研究資源を相互活用しながら広く研究を行い、植物のチカラを最大限に引き出した、より独自性の高い新たなオリジナル植物エキスの開発を目指してまいります。また、開発したエキスの商品化も見据えながら、引き続き国内外問わず広く植物資源を探索し、まだ実用化されていない有効成分の開拓を進めてまいります。



地形と歴史を活かした植物園内の水景庭園



植物の新たな可能性を見出すための
ミャンマーでの植物資源探索の様子

(画像は高知県立牧野植物園提供)

■資料

【高知県立牧野植物園】

所在地：高知県高知市五台山4200-6

開園：1958年4月

園長：川原 信夫(公益財団法人 高知県牧野記念財団理事長)

敷地面積：20.5ha(うち公開園地約8ha)

植物数：3,000種類以上

サイトURL：<https://www.makino.or.jp>



高知県出身で「日本の植物分類学の父」と呼ばれる植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰する四国唯一の総合型植物園。五台山という恵まれた自然環境に調和した園地は博士ゆかりの野生植物など3,000種類以上が四季を彩り、憩いの場として親しまれています。今年博士の生誕160年を迎え、来年春には博士をモデルにした連続テレビ小説「らんまん」(NHK)の放送が予定されています。